

なきごえ



1985

7

筒井嘉隆



私は昭和4年に京都帝大の理学部動物学科を卒業し、大学院で3年余り動物生態学を研究して、昭和7年の5月に大阪市に入り動物園に勤務した。その同じ年の7月に私より2ヶ月おくれてチンパンジーのリタが香川勇君(後の福岡動物園長)の手で輸入されて入園して来た。

しかし私の動物園との関係はさらに古く、明治末年か大正2〜3年の小学生のころ、父に連れられて、動物園の前身の府立博物場に行った記憶がある。北堀江の自宅から当時市内の主要な交通機関であった巡航船に乗って、長堀川から東横堀川を遡り本町橋の橋詰で降り、博物場の動物を見に行った。そして大正3年の動物の移転に際しては、ゾウを市民の寝静まった夜中に松屋町筋を歩かせて天王寺まで連れていったという新聞記事が話題になった覚えがある。70年前のことである。

動物園と私との関係については、平凡社の雑誌「アニマ」の本年4月号に一通り書いたもので、なるべく重複を避けるが、リタは私にはいい研究対象であった、動物学会誌や「植物及動物」「動物心理」などに幾つかの観察研究を発表した。そしてリタは2年おくれてやはり香川君につれられて来たソバカス、ロイド、チビなど4頭のチンパンジーのうちのロイドと仲よくなり妊娠したが、分娩が近づいたころ、風邪ひきから体調をこわし、昭和15年7月22日の深夜に胎児を死産して、翌23日の午前3時過ぎに息をひきとった。偶然私の宿直の晩で、飼育担当の狩野徳松君と2人で、そのお産と死を見とった。私とは縁の深いチンパンジーであった。

なきごえ7月号もくじ

動物と私	2
“コブハクチョウのヒナ誕生”	3
動物園グラフ・動物園日記	4-5
世界のキーウィ	6-7
天王寺の動物たち ④2	8-9
獣医室から ③7	10
動物園ニュース	11

私は昭和17年から市民局の文化課に転勤して「市民の科学知識の普及向上」という仕事を担当していたが、20年3月14日の大空襲で動物園も一部に被害をうけて休園し、園長も応召して不在であり、市民の間でもう閉鎖されるという噂が立った時、田坂局長から2度の勤めを求められて4月に園長に就任した。終戦直前の空襲も頻繁、動物も少なく、飼料も入手しにくい時期であった。幾夜も園長室に泊りこんで警戒に当たったり、特に頼んで本庁から園員への特別配給を貰ったりしたほか、市内の倉庫で空襲で焼けた「焼け米」を貰ってきて動物の餌を補った。終戦の日の8月15日には、正午にラジオで天皇の放送を聞いて、事務所の前に全園員を集めてこれを伝えた。

戦後は美術館に進駐してきたアメリカ兵の残飯の処理を頼まれて、事務所の内庭にドラム缶を4〜5本置いてこれをうけとり、動物の飼料に役立てた。21年はイヌ年で、正月に干支の動物展示を計画したが、愛犬は大抵地方に疎開させていて、セパードなど数種より集まらなかった。しかも食糧不足で動物が狙われ、ミカドキジの雌雄やウシが盗まれたりした。夜警もおびえていた。そうした荒廃した世相の終戦直後であった。

21年に寺内氏が除隊になって帰って来たので、園長を譲り、社会教育課で文化施設を総括した。

昭和25年4月から自然科学博物館の創設にかかり、資料収集を兼ねて各地の調査を行ったが、28年にアメリカから返還された直後のトカラ列島を調査した時は、その南端の宝島で小型の純日本馬であるトカラウマを見つけ、雌雄2頭を購入して持ち帰り、動物園に寄贈した。その後29年のウマ年に京阪電鉄の依頼をうけて、更に2頭の購入をとり計らい、正月に枚方の遊園地で見せた後、動物園の1頭が死んでいたもので、このウマも動物園に寄贈するよう計らった。

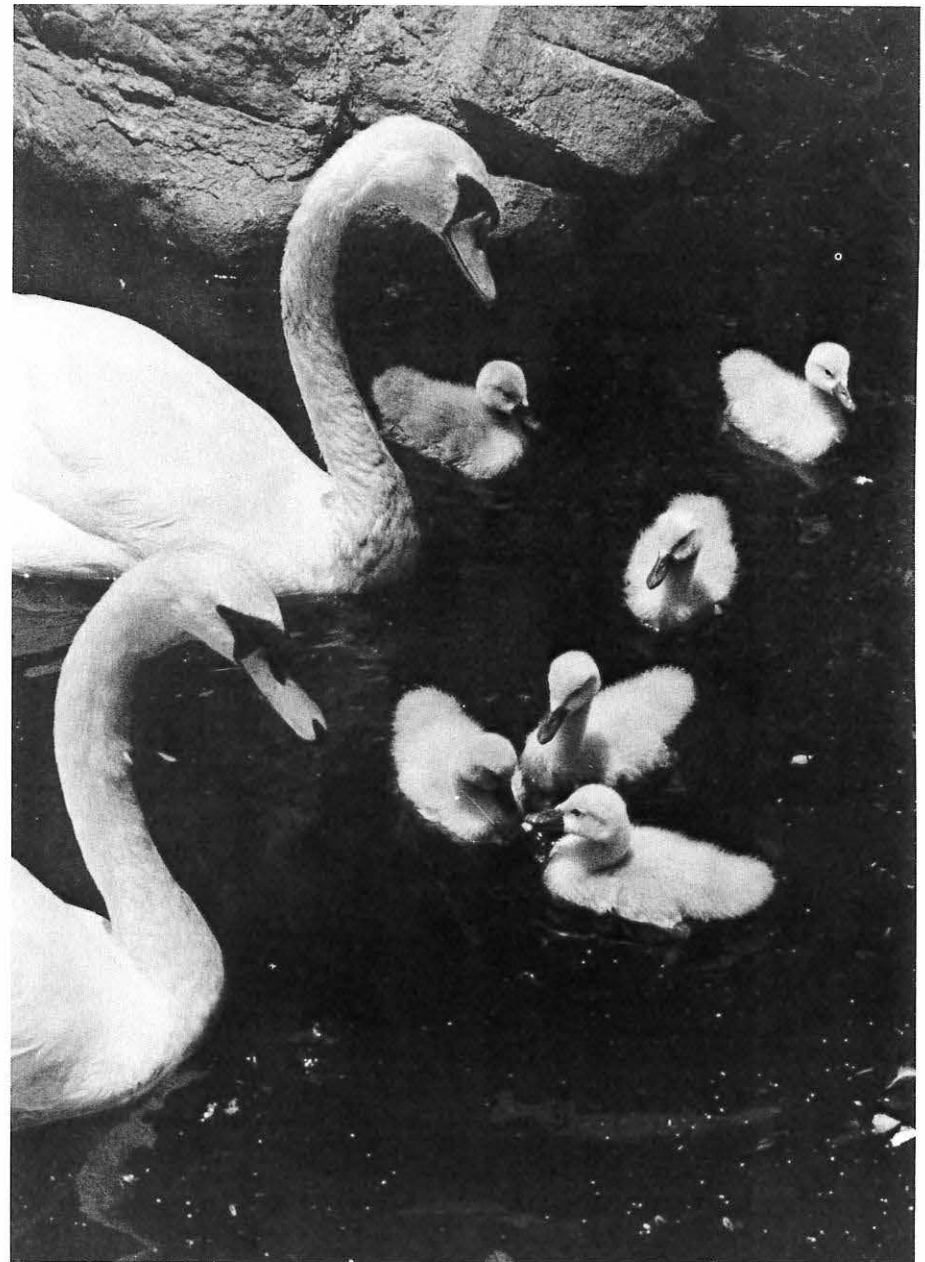
動物園と私とのつながりの一端である。

写真：昭和10年当時、ニシキヘビを持つ筆者

(元天王寺動物園長
前大阪市立自然科学博物館長)

表紙の写真説明

“キーウィ” (*Apteryx australis mantelli*)
ニュージーランドの国鳥にもなっているキーウィは、飛ぶことのできない鳥としても知られています。当園で飼育されているのは、ニュージーランド北島に生息するキタジマキーウィです。(撮影：大川光雄)



“コブハクチョウのヒナ誕生”

コブハクチョウのヒナが5月21日にふ化しました。6羽の小さなかわいいヒナたちは、親鳥の周囲から決して離れようとしません。親子の強いきずなが感じられて、見ていてほほえましい限りです。

(撮影：藪野幸司)

動物園グラフ

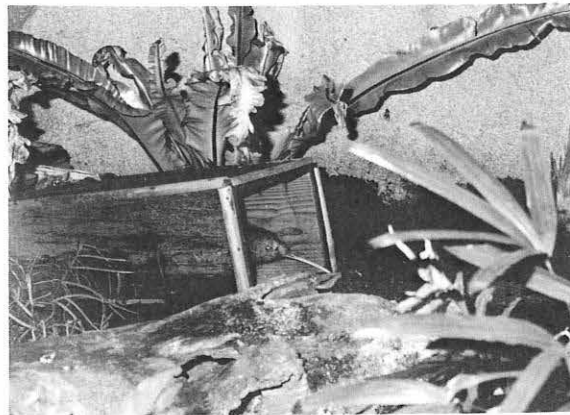
“キーウィ拝見”

1月に夜行性動物舎がオープンしてはや半年が過ぎようとしています。「キーウィも見れます」のうたい文句どおり、昼間でもキーウィが活動しているところはよく観察できます。今回はそのキーウィ、“ジュン”君の動きを追ってみました。

(撮影：大川光雄)



↑ キーウィ舎全景
右側ガラスの内側をジュンが歩いています。



↑ 早ければ朝、11時頃には巣箱から出て来ます。後の大きなシダはオオタニワタリ。



↑ あまり騒々しいと植こみのかげに隠れてしまいます。左の植物はカンノンチク。

5・6月の動物園日記

- 5 / 11. 水禽放養舎のシュバシコウのヒナを9羽確認しました。
- 5 / 12. ニホンザルが1頭生まれました。野鳥なんでも相談が、当園獣医師により展示館前で行なわれました。
- 5 / 13. アカカンガルーとハイイロカンガルーの子の性別を確認しました。
- 5 / 16. ワライカワセミが1卵産卵しました。
- 5 / 17. キョンが1頭生まれました。フサオマキザルの昨年生まれの雄の子が、尾を咬まれたので、入院治療を行ないました。

- キーウィとアルマジロの子の体重測定を行ないました。
- 5 / 18. オシドリが5卵産卵し抱卵を始めました。
- 5 / 19. 本年2産目のキョンが1頭生まれました。ファンボルトペンギンが産卵しました。
- 5 / 20. 定例飼育研究会が行なわれました。
- 5 / 21. コブハクチョウが2羽ふ化しました。ニホンザルが1頭生まれました。
- 5 / 22. コブハクチョウがさらに4羽ふ化しました。ニホンザルが1頭生まれました。
- 5 / 24. ヤブツカツクリの塚に産卵されていた12個の卵を人工ふ化させることにしました。



← 器に入っているのは特製の人工飼料。牛の心臓肉の細切れとオートミール、サラダ油、ビタミン、ミネラル剤をまぜあわせたもの。

1日に食べる量は約200g。嘴の先ではさんで次々と飲みこみます。



← 食べ方はとても行儀がいいとはいえません。器の周りには食べちらかしたものがいっぱい。

人工飼料以外にも月に2回入れる養殖ミミズは大好物。地中に嘴をさしこんでミミズをさがします。



- 5 / 25. 近畿動物園獣医師勉強会が当園で行なわれました。ホッキョクグマが30分間交尾しました。
- 5 / 26. ホッキョクグマが20分間交尾しました。
- 5 / 27. アジアゾウのハルコが左牙を折損したので、消毒治療を行ないました。
- 5 / 28. タンチョウとマナヅルが産卵しました。フクロギツネの雌の袋の中に、2頭の子供を確認しました。
- 5 / 29. ニホンジカに雌の子供が生まれました。ブラックバックの雄が、ベイサオリックスと闘争するため、捕獲し隔離しました。

- ショウジョウトキが1個産卵しました。
- 5 / 30. ブラックバックの雄の子供が生まれました。
- 5 / 31. アカカンガルーの雄“ルーフ”が、放線菌症で死亡しました。
- 6 / 1. ハクビシンが4頭生まれました。
- 6 / 2. 右翼を骨折したカルガモを保護しました。
- 6 / 4. ヤブシチメンチョウの卵を検卵しました。
- 6 / 6. キーウィ、アルマジロ、ハリネズミの体重測定を行ないました。臍脱のブラックバックを手術しました。
- 26 / 10. ペンギンのうちイワトビ、ジェンツー、オオサマの3種を冷房室へ移動させました。

世界のキーウィ：飼育における変遷

§ はじめに

現在、世界では6カ国、10ヶ所の動物園でしか飼育されていないキーウィは、日本ではもちろん当園でしかお目にかかることができません。キーウィ来園満15年をこの7月にむかえ、その活動をじっくりとごらん頂ける夜行性動物舎が1月にオープンしました。今年はまだ、当園の開園70周年にもあたり、このオープンは記念行事の幕明けにふさわしいセレモニーとなりました。

今回は、世界の動物園のキーウィについて、国際動物園年鑑Vol15 (1965)

～Vol23 (1984) を参考にして、表にまとめ、その最近20年の変遷を探ってみました。

§ 世界のキーウィ飼育園

1964年当時、ニュージーランドのオークランド、イギリスのエジンバラ、アメリカのサンディエゴ、オーストラリアのシ



夜行性動物舎の中で元気に活動するキーウィの“ジュン”

ドニーの4カ国4園のみしかなかったキーウィ飼育園が、年がたつにつれてわずかずつ増えていっています。1966年、ニュージーランドのウエリントンが加わります。1968年までは同じ動物園でしか飼育されていませんが、1969年にはアメリカのワシントンが新たに加わります。同園は、1975年にオーストラリアとニュージーランド以外の国ではじめての繁殖にこぎつけました。サンディエゴは、ワシントンよりも前から飼育しているにもかかわらず、1983年春にやっと繁殖に成功しました。1971年からはさらに当園が加わり、1973年には、アメリカのシカゴ・ブルックフィールドが入ります。1974年以後はイギリスのエジンバラが飼育園の中から消えそのかわり1976年からニュージーランドのオトロハンガが加わります。1978年には、オランダのロッテルダムが新たに加わり計4カ国8園となり、1979年には西ドイツのフランクフルトがさらに加わり5カ国9園となります。2年後1981年には、イギリスのロンドンが加わり、この年が、今までで最高の国数及び園数を誇ることとなります。

§ キーウィ飼育数と繁殖

飼育数は近年に近づく程急激な増加を示し、1982年には最高の79羽となっています。1970年代中頃に

降における順調な飼育数の伸びは、ニュージーランドのオークランドとオトロハンガ2園の順調な繁殖成績によるものであり、飼育数の多さもさることながら、キーウィを展示用と繁殖用というふうにより目的別に分け、繁殖用キーウィはペアを形成させて屋外で飼育するなど、この2園の積極的努力によっていることは言うまでもありません。

§ ニュージーランドの国鳥“キーウィ”

1982年、ニュージーランドのオトロハンガ動物学協会より、人工ふ化・育すうで育ったキーウィ3羽

を当園にいただいたときの参考資料には、飼育する上でのかなり細かい注意事項や今まで飼育下で研究されてきた内容が記載されており、かなりの研究成果がすでに得られていたのには驚かされました。

キーウィは、やはりニュージーランドの国鳥なのですね。ニュージーランドの

人々は自分たちのことを“キーウィ”といいます。この鳥を守ることこそ、ニュージーランドを永遠に存続させる道につながると、ニュージーランド人たちは信じて疑わないのかも知れません。

§ 楽観視できないキーウィの将来

キーウィの仲間にはキーウィ、マダラキーウィ、コマダラキーウィの3種が知られていますが、現在順調な繁殖をしているのは、キーウィの一亜種、北島キーウィのみで、絶滅の危機にあるマダラキーウィ、コマダラキーウィは飼育下での繁殖は未だ成功をみておりません。この表を見てみますと、飼育数が多くて雌の比率が雄に比べて高い場合、北島キーウィの繁殖数は多くなるようです。これは、危機の2種の繁殖成功へのひとつのキーポイントになるかも知れません。とは言うものの、北島キーウィが1ペアしかいなかった動物園（4ケース）でもりっぱに繁殖に成功しています。当園は、今年はじめ4羽中唯一の雌を失ってしまいました。繁殖の夢は現在断たれてはいますが、残された雄たちのためにニュージーランドから、お嫁さんをむかえ入れ、繁殖を実現させたいと願うのは私だけでしょうか。

(飼育課：森本委利)

年	飼育国数	飼育園数	飼育総数	その飼育種と飼育種数	繁殖園数	繁殖個体		繁殖動物園										
						総数	成長数	園名	国名	繁殖数	飼育数							
											総計	♂	♀	性別不明				
1964	4	4	6	M 6	0													
1965	4	4	8	M 8	0													
1966	4	5	11	M 10 A 1	1	2	2	シドニー	オーストラリア	2	4	1	1	2				
1967	4	5	10	M 10	1	2	1	〃	〃	2	3	1	1	1				
1968	4	5	18	M 14 種不明 4	1	1	1	〃	〃	1	4	3	1	0				
1969	4	5	17	M 11 種不明 6	0													
1970	4	6	11	M7, A2, 種不明 2	1	1	0	シドニー	オーストラリア	1	2	1	1	0				
1971	5	6	12	M 12	0													
1972	5	7	23	M 23	1	2	0	オークランド	ニュージーランド	2	13	6	7	0				
1973	5	8	20	M 20	1	2	2	〃	〃	2	9	4	5	0				
1974	4	7	22	M 22	1	3	3	〃	〃	3	12	4	5	3				
1975	4	7	28	M 28	1	1		ワシントン	アメリカ	1	2	1	1	0				
1976	4	7	26	M 26	2	10	8	オークランド オトロハンガ	ニュージーランド 〃	7 3	15 ?	3 ?	6 ?	6 ?				
1977	4	8	26	M 25 A 1	2	10	7	オークランド オトロハンガ	〃 〃	4 6	14 ?	2 ?	3 ?	9 ?				
1978	4	8	45	M 43 H 1 O 1	2	11	7	オークランド オトロハンガ	〃 〃	5 6	13 17	4 4	2 7	7 6				
1979	5	9	64	M 60 H 3 O 1	2	6	5	オークランド オトロハンガ	〃 〃	2 4	26 17	11 5	9 6	6 6				
1980	5	9	54	M 50 H 3 O 1	2	8	8	オークランド オトロハンガ	〃 〃	2 6	17 13	11 7	5 6	1 0				
1981	6	11	62	M 55 H 3 O 3 L 1	2	7	6	オークランド オトロハンガ	〃 〃	2 5	23 13	10 3	5 4	8 6				
1982	6	10	79	M 68 H 5 O 5 L 1														

注意：1) 飼育総数のうち、1964年はシドニー分が、1976年1977年はともにオトロハンガ分が不明のため加算されていません。

- 2) 飼育種は M : Apteryx australis mantelli 北島キーウィ
 A : Apteryx australis australis 南島キーウィ
 L : Apteryx australis lawryi スチュワート島キーウィ
 H : Apteryx haasti マダラキーウィ
 O : Apteryx oweni コマダラキーウィ
- 3) 繁殖種は M : Apteryx australis mantelli 北島キーウィのみ

キーウイ



産卵直前のメスのレントゲン写真

§ 鳥が先か、フルーツが先か

ある時、ニュージーランドの人々がニュージーランドで穫れるチャイニーズラズベリー（日本名 シナサルナシ）という果物を輸出しようということになり、沢山のシナサルナシが海を渡りました。しかし、その果物は卵形で地味な茶色をし、短い毛が全体に生えているせいか、割った時の水々しい緑色や上品な甘味があるにもかかわらず、一向に売れませんでした。

がっかりしたニュージーランドの人の中で、ある人が、この果物はニュージーランドの国鳥であるキーウイの体つきに似ているから、名前をキーウイフルーツと変えてみよう、と言い出しました。そこで、キーウイフルーツと名を変えたこの果物は再び海を越え、今度は大々的に売れるようになりました。今では日本の果物屋さんの店頭にも並んでいます。

よくキーウイの話をしめると、「キーウイという鳥はあのキーウイフルーツに似た鳥でしょ」と、言われることがあります。しかし、本当は反対で鳥が先で、フルーツが後なのです。

§ キーウイ来園

このようにキーウイは果物や切手、貨幣になったり、靴墨の商標になったりして名前だけは結構有名でした。しかし、実際にこの鳥を見た人は大変少なく、1970年に開催された万国博を記念してニュージーランドから天王寺に贈られた2羽のキーウイが日



鼻の穴はクチバシの先端に開いています

本初渡来です。この時来たのはオスのニュージーランドの一方がいでした。ランドの方は長旅の疲れからか、来日して間もなく肺炎のため死亡しましたが、ニュージーランドの方は至って元気で、現在も今年一月にオープンした夜行性動物舎で静かに暮らしています。キーウイの長生き記録ははっきりしませんが、近い仲間のマダラキーウイで20年という記録があります。ニュージーランドは日本に来てもう15年になろうとしていますし、来日した時すでに成鳥に近かったそうですから、ニュージーランドの長生き記録はこのマダラキーウイの記録に迫ろうというもので、これからも記録を伸ばしてくれるものと思います。

§ キーウイの不思議

キーウイという鳥は知れば知る程、大変奇妙な鳥です。これはニュージーランドという長い間大陸か

ら隔離され、哺乳類がない島で進化したからだと思われています。

まず、キーウイは飛べません。他にダチョウやペンギンなども飛べませんが、これらには外見から見て明らかに翼とわかるものが見えます。しかし、キー



木の洞穴で一休み

ウイの場合、その翼すら見えません。触ってみると、わずかに小指程の翼のなごりが触れる位です。そして、夜行性です。

哺乳類には夜行性のものがたくさんいますが、鳥ではフクロウやヨタカの仲間位で、夜行性の鳥はとても少ないのです。

3番目に鼻の穴がクチバシの先に開いています。これは約9000種と言われる鳥の中で、このキーウイだけです。普通の鳥の鼻の穴はクチバシの根元に開いています。そしてあまり嗅覚が発達していません。キーウイは逆に大変嗅覚が発達しており、土の中にクチバシの先を突込むだけで地下10数センチにいる虫やミミズを嗅ぎ出して食べることができます。

4番目のキーウイの不思議には卵があげられると思います。キーウイのお母さんの体重は約3kg。卵の重さは約750gと、なんと母親の1/7もの重さがあ



人工化したロンロンとジュンの為の特別メニュー。牛の心臓肉をミミズ状に切り、オートミールや栄養剤を混ぜています。

るのです。キーウイと同じ位の体格をしたニワトリが産む卵が普通50~60gですから、いかにキーウイの卵が大きいかわかると思います。こんなに大きな卵ですから、かえるのにも日数がかかり、約80日も必要です。これは鳥の中でも最長のもののひとつです。そのかわりかえったヒナのお腹には栄養になる卵の黄味が残っていて、卵からかえっても5日間は全く何も食べません。

大きな卵を産むお母さんの苦勞を知ってか卵を暖めるのも、ヒナを育てるのも殆んどお父さんの役目です。お父さんはヒナに直接エサを与えたりしませんが、地面をけちらして、ヒナがエサを取りやすいように一生懸命面倒を見ます。

§ 天王寺のキーウイ

哺乳類がない間はキーウイなど鳥達の天下だったニュージーランドにもマオリの人々やヨーロッパの人々が入って来、食料にする為に捕えられたり、彼らが持ち込んだイタチ、テン、ネコなどに殺されたりしてキーウイの数は大変少なくなりました。しかし、ニュージーランド政府は厳しい保護政策を取り、現在は一時よりも少しは生息数が回復してきているそうです。

天王寺ではニュージーランドに続いて、昭和57年7月に3羽の若いキーウイが入園しました。3羽はダイ、ロンロン、ジュンと名付けられ、大事に育てられました。そして次第にメスのダイとオスのジュンの仲が良くなってきたように見え、あの大きな卵が日本



土の中にあるミミズを探しています。

でも見られる、と期待していた矢先、入園者の心ないイタズラが原因でダイが死亡してしまいました。残った3羽はいずれもオスで当面産卵を期待することはできませんが、早い機会に3羽にお嫁さんをお願い、日本で初めてのキーウイのヒナ誕生を夢見るこの頃です。

(長瀬 健二郎：飼育課 獣医師)

“キーウィ、その謎をさぐる”

今年2月10日、キーウィのメスが亡くなりました。新装なってまもない夜行性動物舎での死亡だっただけに、我々関係者のショックは言いようもなく大きなものでした。しかしこの7月でオスのニュージーは来園満15年を迎えます。また昭和57年7月に来園したオスのジュンとロンロンも満3年を迎えます。この15年間で2羽のメスのキーウィを惜しくも失ったわけですが、その死を決してムダにすることなく、3羽のオスの飼育に一層努力していきたいと思っています。

ところで我々は2例のキーウィの剖検を経験したわけですが、キーウィとは本当に不思議な鳥だと痛感しました。今回はその解剖学上の特徴をご紹介しますことで、キーウィのもつ謎をさぐってみることにしました。

☆キーウィは外鼻孔が嘴の先端に開口し、鳥の中では珍しい嗅覚を有する鳥だといわれています。一方、夜行性動物にありがちな、視力が弱いということも指摘されています。実際にキーウィの脳を調べてみると、脳そのものは比較



的大きいと言えますが、視覚に関係する脳の組織はあまり発達していません。反対に嗅覚に関係する組織は大変よく発達しています。このことから嗅覚がすぐれ、視覚が劣るというのは説明のつくことかもしれません。

☆キーウィは素のうが少なく、胃は腺胃、筋胃に分かれ、また盲腸は左右に1対あります。このような消化器形態の鳥としては、ツルやチドリ仲間があげられます。鳥の消化器の形態は食べる餌の種類に大きな影響を受けており、ミミズを主食とするキーウィはゴカイを食べるチドリとよく似ているのかもしれない。

☆鳥は一般に卵巣が左側に1ヶしかありません。発生途中で右側の卵巣が退化してしまうからです。ところがこのキーウィは両側に卵巣があることで知られています。今回の剖検でもそのことは確認されました。しかし右側は左側の卵巣の半分ほどしかなく、正常に機能をはたしているのか疑問に思いまし

た。しかし資料によりますと、体の20~25%もある大きな卵は普通2ヶ産みますが、その際、左右の卵巣から1ヶずつ、約30日ほどの間隔で排卵されるとのことです。ただこの卵の通りみちである輸卵管は左側だけにしかありませんでし

た。
☆飛べない鳥キーウィには翼が痕跡程度しかないと本には書かれています。私も翼はないものと思っていました。今回その点を詳しく観察してみますと、小指位の幅で、ひっぱると長さ4cm位の翼がありました。先端には爪状のものが1つついており、腕にあたる部分には、太い羽軸をつけた羽が3本ほどついていた。念のためにレントゲン撮影も行いましたが、前腕部は桡骨と尺骨の2本の骨がはっきりと分かれているのも認められました。しかしこの翼ではやはり1cmたりとも体を浮かす力はなさそうです。

いずれにしてもキーウィは不思議な鳥です。鳥でありながら鳥らしからぬ、どちらかといえば哺乳類的な雰囲気をもった鳥ではないでしょうか。

(飼育課：宮下 実)

動物園ニュース

§ コブハクチョウふ化

4月11日から抱卵していたコブハクチョウは15日に6卵確認されていましたが、最終の産卵日がわからなかったため、正確なふ化予定日がつかめずやきもきさせられました。



5月21日に6羽のひなが、無事ふ化しました。日本庭園の池を親の後を一行になつて泳ぐ姿はたいへんかわいいものです。

§ キジ類のふ化続く

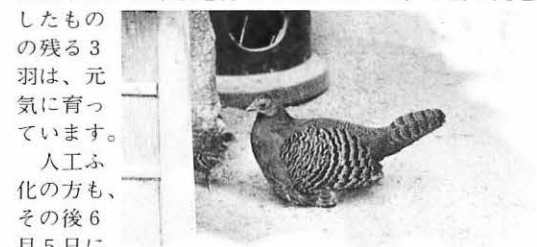
先月号で、ハイロコクジャクが自然ふ化し、ミヤマハッカ、コジュケイ、シマハッカが抱卵中であることはお知らせしましたが、その後コジュケイは、ふ化しませんでした。ミヤマハッカ、シマハッカは、無事ふ化しました。

ミヤマハッカの自然ふ化は、昨年続き2度目です。今年は10卵も抱卵していましたが、6月5日に7羽がふ化し、続いて6日、7日にそれぞれ1羽ふ化



しましたが、これも死亡しました。しかし、残る7羽はたいへん元気で、群らがつて親鳥の後をチョコチョコと歩いて歩いています。

一方、シマハッカの方は、6月6日に4羽ふ化しました。昨年も1羽ふ化したのですが、雄親と一緒にしていたためうまく育ちませんでした。今年



はあらかじめ雄親を分けておいたので、1羽は死亡したものの残る3羽は、元気に育っています。人工ふ化の方も、その後6月5日に

現在の飼育動物数

(1985年5月31日現在)			
哺乳類	13目	111種	428点
鳥類	18目	177種	527点
爬虫類	3目	31種	60点
計	34目	319種	1,015点

ベニジュケイが1羽、15日、16日とセイランが2羽ふ化しています。

§ フランソワルトンの赤ちゃん誕生!!

6月15日、フランソワルトンが出産しました。両親は一昨年の10月に上海動物園との第5次動物交換で来園したもので、今回は初めての産卵です。初産にもかかわらず母親はたいへんじょうずに子供を育てています。親は全身が黒い体毛でおおわれていますが、赤ちゃんは親とは全く異なり背中から下半身にかけてわずかに黒いだけで、全身が金色の体毛におおわれています。今後の成長がたいへん楽しみです。



§ その他の出産動物

出産シーズンもたけなわとなり、前記の動物の他にニホンジカが5月29日、30日にメスが、6月17日にオスが生まれています。また

ハクビシンが6月1日に4頭生まれています。初産ですが順調に成長しているようです。昨年は生れなかったカリフォルニアアシカも6月16日に生まれています。

§ ペンギン、冷房室に移動

例年ですと5月末までには、暑さに弱いオウサマペンギンやイワトビペンギンなどのペンギンを冷房室に移動させるのですが、今年はオウサマペンギンが2羽抱卵していたため移動を見合わせていたが、2卵とも無精卵と判明したため、6月10日にやっと冷房室に移動させました。移動したのは、オウサマペンギン5羽、イワトビペンギン7羽、ジェンツーペンギン1羽で、他のペンギンはそのまま屋外に展示しています。

§ 園内植物園だより

水禽放養舎とは虫類舎前の藤棚は、まだ新しく藤の成長が十分でないため、今年もヒョウタンの植付けをしました。夏の暑い日差しの中に、いっふう変わった木陰を提供してくれることでしょう。

* 休園日のお知らせ *

動物園の休園日は毎月第3月曜日です。9月までの休園日は下記のとおりです。
7月15日(月)、8月19日(月)、9月17日(月)、
開園時間は午前9時30分から午後5時までで、午後4時に切符売止めになります。

ゆとり満喫、信頼のカード。



ショッピングから海外旅行まで、
1枚のカードでワイドにご利用いただけます。
近鉄がDCおよびVISAと提携した便利な新カード。

近鉄グループカード (キップス) **KIPS**

◎国内・海外のDC加盟店すべてに通用。
◎近鉄百貨店グループをはじめ、都ホテルチェーンなどでの
ご利用にはいろいろな特典が。



お問合せとお申込みは 各店クレジットセンターへ

●アベノ店7階●上本町店10階●東大阪店本館●奈良店4階●西京都店1階
(京都ファミリー)

ひかりのくに

監修・阪口浩平
指導・宮武頼夫

●オールカラー

むし

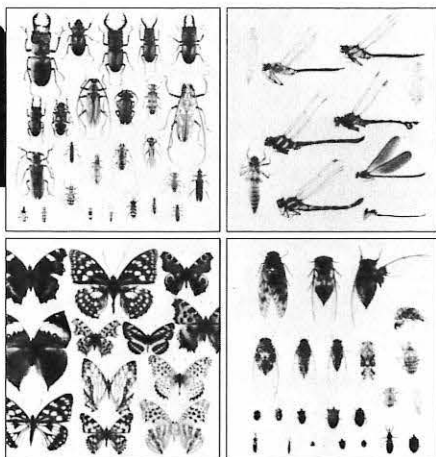
くらしとかいかた

今まで、気にもとめなかつた自然の中で昆虫たちが生きている。みんなも、虫になって自然の中を歩いてみよう。きっとすばらしいことに出会えるはずだ。

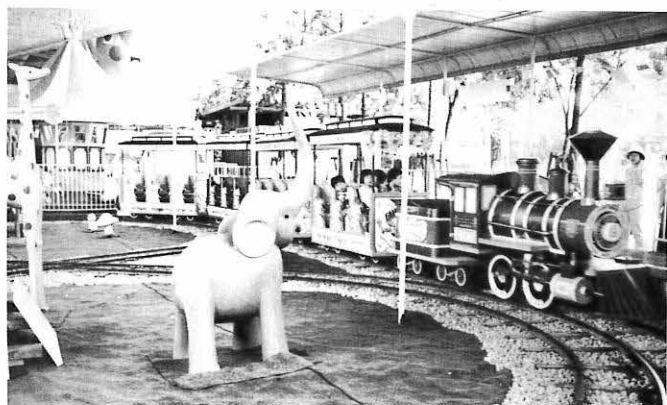
85変形
84ページ

580円

ひかりのくに株式会社
〒543-767 大阪市天王寺区上本町3-2



たのしいのりもの、が待っています。



1人1回
100円
(1才まで無料)

団体割引
(30人以上)
……1割引

久竹娛樂株式会社
TEL (06) 541-3112

◎園内3ヵ所(南園入口横、北園ステージ横、北園高架下)に各種のりものがあります。

天王寺動物園の機関紙

月刊 **なきごえ**

ご購入をお奨めします。

年間購読料 1,100円 (含、郵送料)

お申し込みは、**大阪市天王寺動物園協会**へ

TEL 06-771-0201

世界初の最高感度

(カラープリント用フィルム)

1600 新登場!

かろうの大林

桜橋本店 ☎341-8091

三番街店 ☎372-5031



フジカラー HR 1600

ISO1600/33° 135-24枚撮

天王寺動物園

ZOO GUIDE の

ご購入をおすすめします
(1冊 ¥450)
園内各売店にあります

あらゆる動物に愛の手を!

社団法人 大阪動物愛護会

動物文学会主宰 平岩米吉著

新刊

猫の歴史と奇話

(定価・2600円)
A5判・260頁
口絵挿画・113図

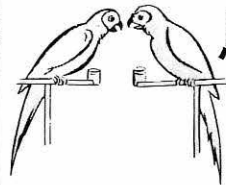
猫に関する古今東西の科学と文献を網羅し、しかも平易な文章で綴った猫の宝典。著者の三十余年にわたる収集研鑽の成果、ここに結実。

☆学術書でありながら、推理もののように愉しく読める猫の本
☆架空の伝説は別に、猫の珍しい実話400余を収載

主な目次

- | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 第一章 猫の歴史
欧州は古代エジプト、日本は宇多天皇から近世まで | 第二章 猫股伝説
老猫化けてさまざまな怪異をなす |
| 第三章 猫の報恩談
蛇を咬んだり、金を運んだりする | 第四章 野性猫の存在
裏日本の山猫、離島の山猫、鬱陵島の猫の渡米など |
| 第五章 猫の奇話(上)
長命、多産、三毛猫などの形態の奇話 | 第六章 猫の奇話(中)
長距離の帰家記録や鼠を育てるなど不思議な行動 |
| 第七章 猫の奇話(下)
マタタビを媚薬とする奇妙な習性など | 第八章 益獣としての猫
あらゆる角度から猫の生態と効用を探究 |

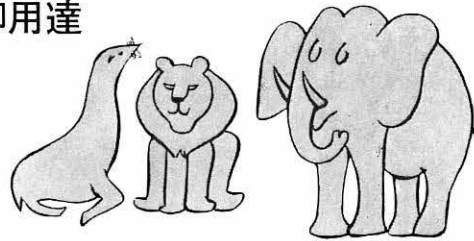
発行 動物文学会 〒152/東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話(03)717-1659・振替東京5-9800
発売 (株)池田書店 東京都新宿区弁天町43番地 振替・東京4-165425



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

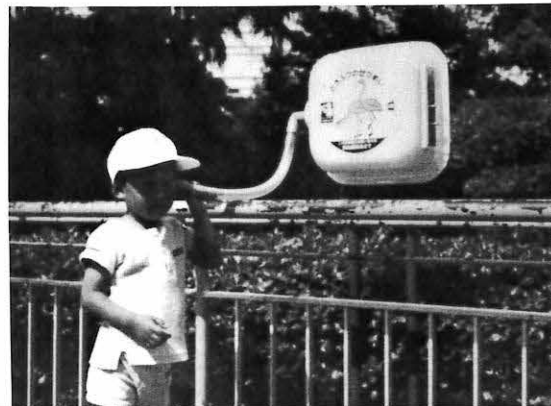
- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、
ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数カ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での

お食事、ご休憩は

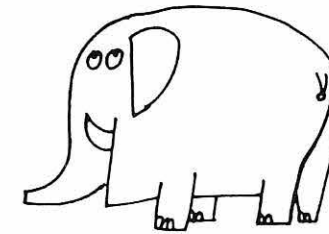
大阪市天王寺動物園内

中央売店

☎(06)771-0973



天王寺動物園内



南園売店

代表者 松谷良子

大阪市天王寺区茶白山町6-74
電話(06)771-7110番

園内での写真は…

動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社

TEL 06-856-7444

新鮮です、さわやかです。フルーツが入った、おしゃれなヨーグルト。



果肉とソフトヨーグルト
の名コンビ

自然の
おいしさ



雪印ヨーグルト

●ブルーベリー・キウイフルーツ・ストロベリー・オレンジ・カクテル

夜行性動物舎完成記念

キーウイの
ぬいぐるみ

新発売

1コ 2,300円

協会で……!



なきごえ 昭和60年7月10日発行（毎月1回10日発行）第21巻 第7号 （通巻239号）

編集 / 大阪市天王寺動物園

発行人 / 大阪市天王寺動物園協会 中川道朗

印刷所 / 株式会社 松村善進堂 定価 100円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 37823

1年継続 (12部) 1,100円 (送料共)

編集委員

（土井 良彦・伊藤 重朗・小出 雅三・樽本 勲・中川 哲男・前田 豊彦・宮下 実）
（長瀬健二郎・榊原 安昭・森本 委利・大野 尊信・葭谷 文彦・農本 武志・野口 秀高）
（仲谷 登・柴田 総・藪野 幸司・堀 弘・大川 光雄）